

2014年3月6日

報道関係各位

【リリース資料】

## 三井倉庫のタイバンコク新物流施設が完成し稼働開始

—アジアパシフィックの物流施設拡大が順調に進捗中—

三井倉庫株式会社（社長：藤岡 圭）がタイで建設していた新たな物流施設（延床面積 19 千㎡）がこのほど完成し、2 月から本格稼働を開始しました。当社グループ全体として、急速に拡大するバンコク都市部向けの商品の流通や機械部品の物流の拠点として運営していきます。

当社は、中期経営計画「MOVE 2013」の事業方針として「アジアパシフィック地域への集中投資」を掲げており、タイのほか、インドネシア、中国、韓国などでも物流施設の新設・増設を進めています。これらの新增設がすべて完成すると、当社のアジアパシフィックでの物流施設規模は現状の 337 千㎡から 442 千㎡へと約 31% 増加する見込みです。



### 【タイ新物流施設の概要】

名称：MITSUI-SOKO LOGISTICS CENTER BANGNA Km.19

所在地：バンコクから東に約 20km  
(空港に至近)



施設：延床面積計 19,098 ㎡  
平屋建倉庫及び 2 階建事務所

既に、多くのお客様の貨物の取り扱いを開始しており、このうち約 15 千㎡は、当社のタイ現地法人がバンコク都市圏を睨んだ消費財等の物流拠点として運営し、約 4 千㎡は、航空貨物事業を行っているグループ会社三井倉庫エクスプレス(株)の現地法人が、機械産業などの部品物流対応の拠点として活用します。

当社は、2016 年 3 月期を目標最終年度とする現行の中期経営計画「MOVE 2013」の事業方針として「アジアパシフィック地域における成長領域への集中投資」を掲げており、現在、タイのほか、インドネシアのジャカルタ、中国の上海、韓国の釜山で物流施設の新設・増設を進めています。すでにすべてのプロジェクトが着手済

みであり、このたびのバンコク施設の稼働開始に続き、本年中には、その大部分が完成する見通しです。

当社はアジアパシフィック地域の9カ国において、長い国では30年以上に亘り物流事業を展開してきており、物流施設の規模は2013年12月末時点で延床面積約337千㎡（東南アジア174千㎡、北東アジア163千㎡）となっていますが、現在工事中のすべての施設が完成すれば、延床面積は約105千㎡（31%）増加し、合計約442千㎡（東南アジア222千㎡、北東アジア220千㎡）に達する見込です。

当社は、今後とも、「MOVE2013」の目標達成に向け、世界の成長センターであるアジアパシフィック地域での事業基盤強化や3PL、ヘルスケア関連物流など成長分野の強化のための効果的な投資を積極的に行っていく方針です。

また、本年10月に予定している持株会社制への移行により、事業を一層スピーディに展開・成長させていく体制を整備し、事業規模と収益の拡大を目指していく所存です。

以上

【お問い合わせ先】

三井倉庫株式会社 広報室（宮下、鈴木）

（Tel. 03 - 6400 - 8017）